

第2分科会

子どもの健康な心と身体を育む 食育を考える

問題提起園 田上幼稚園

問題提起者 濱崎 安奈

1 研究課題

愛されて育つ子ども

2 研究・研修の視点

食は人間が生きていくうえで欠かすことのできないものであり、健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることで人は生きる喜びや楽しみを得て、健康で心豊かな暮らしを実現できる。

2005年6月に成立した食育基本法の前文では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、何より「食」が重要である」、「食育を、生きる上での基本であって知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」と示しており、特に子どもに対する食育を重視している。

しかし、現代の日本では、核家族化の進展、共働きの増加など食を取り巻く社会環境が大きく変化し、多くの家庭が忙しい生活を送る中で生活スタイル等が多様化し、大切な親子のコミュニケーションの機会が減り、供食が減少、人生経験豊かなおじいちゃん・おばあちゃん等、異世代との関りが薄れつつある。

そのため、本来、世代から世代へと受け継がれていた食事の団欒の中で生まれるコミュニケーションやしつけ、マナー、いただいている生命や食事ができるまでに携わっている人々への感謝の心、地域で育まれてきた伝統的な味覚や食文化が見失われつつある。

幼稚園で給食を中心に幼児の発達段階を踏まえた食育を展開するには、保育者はもとより給食関係者など園の全職員、食に関わる多くの関係者、そして何より家庭・地域の連携および協働のもとで進めていくことが重要である。

幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で心と身体を十分に働かせて生活することによって、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は培われていくものである。健康な幼児を育てることは、単に身体を健康な状態に保つことを目指すことではなく、他者との信頼関係の下で情緒が安定し、一人一人が伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組むことができるようになることである。

健康な心と身体を育てるためには、食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育者や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちが育つように工夫し、研究を深めていく必要がある。

3 主な研究・研修の内容と計画

- ☆ 家庭の食の情報を収集・共有して、家庭での食への関心を深めていけるよう連携をとる。
- ☆ 行事食や栽培などを通して、食への興味が深まるようにする。
- ☆ 保育者や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ工夫をする。

【研究計画】

令和2年度

- 食への興味や関心を深め、健康な心と身体を育むための保育者の働きかけについて研究する。

令和3年度

- 食への興味や関心を深め、新しい生活様式を踏まえ子どもと共につくり出す活動の在り方について研究する。

4 研究の概要

(1) 研究・研修テーマのとらえ方

＜ 田上幼稚園の食育 ＞

- ア 食べることで幼児期に「食べることのできる感謝の気持ち」を身に付ける。
- イ 給食で幼児期に「規則正しい生活習慣」を身に付ける。
- ウ 自園で作る給食の良さ。

- ・ 冷たいものは冷たく、温かいものは温かく食べられる。
- ・ みんな同じ献立で、楽しく食べて好き嫌いが改善される。
- ・ 個人差に応じお代わりができ、アレルギーへの対応ができる。
- ・ 旬の食材、添加物など極力少ない、安心安全な食材を使用できる。

本園では開園以来、食育に力を入れてきた。さらに、家庭と連携を取り、食への興味関心を深められるよう環境を工夫したり、遊びを工夫したりし、保育者の働きかけについて追及していきたい。

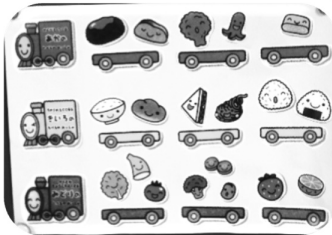
(2) 研究内容

- ・ 食育の年間計画（各年齢別）を作成し、実践、改善していく。
- ・ 行事食や栽培などの体験を通して、食への興味が深まるよう保育者の声掛けや、援助の仕方を考える。
- ・ 家庭との連携を取り、食に対する具体的な働きかけによる幼児の成長や心の動きを考える。

(3) 実践例 I

食育教材

… 5月から始まる給食の導入として、食育教材を使って子どもたちに食べ物への興味を持たせる。



3つの色の食べ物列車
各クラスに掲示



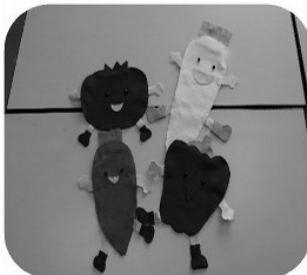
赤黄色緑の食べ物グループをかわいい列車で表現し、いろいろな食材の働きについて興味を持たせる



マジックスクリーン



苦手な野菜を克服
できるよう声掛け



野菜のパペット



苦手な野菜を克服
できるよう声掛け



カレー作りのエプロンシアター



カレーの中に入れる野菜を知り、興味を持たせる

実践例Ⅱ

5歳児年間食育計画 年長組（きく、バンブー） 参照

		家庭との連携			
ねらい		<p>*自分たちで食事の場を整え、マナーを守り食事を楽しみ合う心地よさを感じる。 *食事の大切さがわかり、バランスよく食べる。</p>			
		1期 [4月・5月]	2期 [6月～8月]	3期 [9月～12月]	4期 [1月～3月]
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの子が箸を正しく使い、こぼさずに食べる。 ●友だちと声をかけ合いながら、進んで給食当番活動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●進んで水分補給をしている。 ●プランターや畑の野菜の変化を観察し、収穫を楽しみにしている。 ●食事前後の手洗いやうがい、歯みがきを簡単に済ませようとする姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三色食品群の分類を意識しながら、苦手なものも自分なりに食べるように調整している。 ●給食当番の流れや食事のマナーがわかっているが、ときどき楽しさを優先し、乱れていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分や友だちの食べられる分量がわかり、苦手なものを食べようとがんばる姿を励ましたり、おいしさを伝え促したりする姿が見られる。 ●小学校への期待を持ち、目標時間を決めながら給食を食べようとする。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●三角食べ、箸の持ち方、食事マナーを意識する。 ●役割を分担しながらスムーズに当番活動を進める。 ●野菜の苗を植え、変化や発見を保育者や友達と共有する。 ●年下のクラスの配膳を手伝い、人の役に立つ喜びを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちで栽培し、収穫することを楽しむ。 ●手洗いや歯みがきの大切さを聞き、意識して丁寧に行動しようとする。 ●玉ネギ掘りに出掛け、畑で野菜を収穫する楽しさを味わう。 ●食材ごとの栄養のはたらきについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イモ掘りを体験し、収穫の喜びを味わう。 ●食べることは命をいただくことであることや、食に携わる人々の存在に気づき、感謝の気持ちを持つ。 ●鏡もちがどのようにして出来上がるのかを知り、伝統的な行事に興味を持つ。(もちつき) 	<ul style="list-style-type: none"> ●園での給食を振り返る。 ●鏡開きの行事でぜんざいを食べ、伝統的な食事を味わう。(鏡開き) 	
環境構成と保育者の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●年長児として手本となって食事をしようと張りきる姿を受け止めていく。 ●自分のグループの当番活動を目で見て確認できるように当番表を掲示する。 ●夏の野菜栽培について興味を持つよう栽培の仕方や野菜について話をする。 ●他クラスの配膳を手伝うことで、年下の幼児の世話に興味を持ち、いたわりの姿を受け止めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三色食品群分類表を掲示し、バランスよく摂ることは体の調子をよくすること伝える、暑さに負けないで食べる気持ちにつなげる。 ●虫歯になりにくい食品の話を絵本や紙芝居などで伝え、関心を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もちつきや、もちを丸くこねる体験をして感じたことを共有しながら、伝統的な行事への関心が高まるようにする。 ●勤労感謝の意味を伝え、食材が給食として出るまでの過程を一緒に考え、感謝の気持ちを持つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リクエスト給食を考え、食を楽しく振り返る。 ●鏡開きの行事の意味を伝え、ぜんざいを一口でも食べるができるように見守る。(鏡開き) 	
行事食、食材と栽培について	<ul style="list-style-type: none"> ●季節ごとの野菜を知り、栽培への興味を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スイカ割りをして季節感を味わう。(お泊り保育) ●収穫した野菜を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もちを丸くこねる体験をし、作る楽しさや難しさ、完成した喜びを実感する。 ●ハロウィンごっこで仮装し他児との交流を楽しむ。(ハロウィン) ●クリスマス会で、会食の配膳をし、異年齢児に喜ばれることで、人の役に立つ喜びを感じる。(クリスマス会) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ひな祭りでちらし寿司を食べる意味を知り、ひな祭りについても興味を持つ。(ひな祭り) ●節分の意味を知り、豆まきを楽しむ。(節分) 	

実践例Ⅲ

行事食

・ 行事の意味を学びながら食事を楽しめるように工夫する

月	行事	メニュー	活動の様子	
6月	野菜の収穫	きゅうりのおかかあえ 	4月中旬に野菜の苗植えをして野菜の生長を楽しむ。 収穫した野菜をクラスごとに給食室で調理してもらい試食。	
10月	ハロウィン	パンプキンスープ	各クラス手作りの衣装を着てゲームやダンスを楽しむ。	
12月	クリスマス会	プチケーキ 	クリスマス会後、手作りのプレゼントを持ってくじを引いた他のクラスに移動、ゲームをしたりプレゼント交換後会食 ※(年少・中・長)クラスを解体して交流	
	もちつき	飾りもち 	お正月ならではのもちつきを体験することにより、お正月を迎える期待ともちをまるめて飾りを作る楽しみを知る。 ※ 以前は雑煮といももちを食べていたが、現在は安全・衛生面を考慮して試食は行っていない。	
	そばうち		希望者のみそば粉からこねてそばを作り試食 園長が作り方の指導 	
1月	鏡びらき	ぜんざい (もちは入っていない) 	ぜんざいを食べて一年の健康を願う。 ※ 以前は小さなもちが入っていたが、安全面を考慮して現在は入っていない。	
2月	節分	大豆の五目煮 	・ 鬼の面を作り豆まきをする。 ・ 大豆はやわらかく煮てあり、誤嚥を防ぐ ※ 以前は大豆の小袋を出していたが、現在は誤嚥を考慮し出していない。	
3月	ひな祭り	ひなあられ 	・ ひな人形の製作 ・ ひな祭りの話を聞いて給食でひなあられを食べる。	
	お別れ会食		・ 年長時の卒園を祝い、お別れ会后プレゼントを渡し、一緒に交流し食事を楽しむ。 体育館でバイキング形式 (今年はコロナウィルス予防の為、クラスで会食)	

実践例Ⅳ

保護者との連携

試食会

・・・10月（昨年10月23日実施）
 年長組の園外保育の日を利用して、給食試食会を行う。（PTA執行部の企画）
 子どもたちが普段食べている給食を味わってもらい、食材のこだわりや工夫している事について知ってもらい、家での食事作りのヒントを得る機会となる。

給食献立の本
 （全園児に配布）

・・・ 毎日の献立表を見て給食献立の本と照らし合わせて、その日のメニューと食材を知る。家庭の夕食と重ならないよう配慮してもらう。



食事状況調査表

入園・進級時（4月）家庭に調査表を提出してもらい、個々の子どもの食事状態、アレルギー等を確認する。

- ほとんどの子どもが朝食を20分～30分かけてしっかり食べている。（食べないことが多い子 157人中3人）
- 夕食は30分～40分かけて食べている。（1時間以上かけて食べる子 157人中8人）
- 食事が進まない時は、親が食べさせる家庭が多い。
- 大きい肉が噛み切れない、飲み込めない、早食いが目立つ等の悩みもあった。

食材の工夫

園での野菜の提供は、衛生上の理由からほとんど加熱して提供している。今回は生のトマトを提供したが、ほとんどの子が完食（大トマトの1/8カット）苦手な子も一口は食べた。

りんご・・・年少組以上は皮付きのりんごを提供、皮ごと食べる。
 年少組→1学期は皮がついていることに抵抗があり皮だけ残していたが、3学期にはほとんどの子が食べられるようになる。
 年少組以上は食材はできるだけ大きめにして、口や歯の発達を大切にしている。前歯で噛み切る、奥歯ですりつぶす、咀嚼力をつける練習をしている。

いりこ・・・カルシウム不足を解消するために「いりこ」を給食時に毎日食べている。新鮮な「いりこ」を取り寄せ、園で3時間かけて煎っている。



実践例Ⅴ

箸の持ち方



5歳男児 M (H25. 1. 25)	3歳男児 H (H27. 11. 2)
<p>年中時</p> <p>進級当初、フォーク、スプーンだったが箸に移行。上手にグー握りで握れず、食も進まず好き嫌いもあり、食べることに精一杯だった。家での様子を聞くと、フォーク、スプーンを使いがちになっているとのこと。</p> <p>まずは、給食所時間が楽しい時間となるように、言葉掛けはなるべく減らし、会話を増やす。</p> <p>年長時</p> <p>～11月まで上記と同じ。</p> <p>就学へ向けて、箸をきちんと握って食べることができるように保護者と話をす。家庭でも毎日箸を持つ練習に取り組んでくれた。</p> <p>「箸の握り方をきちんとしようね」と言うと言が進まなくなり手が止まる。就学の期待を高めつつ、根気強く言葉を掛けた。</p>	<p>入園当初</p> <p>年少組20人中、過半数以上スプーン、フォークを使っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入園当初は箸を使いたがらずフォークとスプーンでの食事が続いた。 箸の持ち方は、上から握っていたため、下から握るように声掛けを行った。家庭にも連絡し、協力してもらった。徐々に箸の持ち方が変わってきた。 <p>年少時では下から持って食べるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> グー握りでごはんやおかずを食べる。 少しづつ箸でごはんをさめるようになる。
<p>☆ バターコーン つかみにくいもの ごはん</p> <p>口をお皿につけてかき込む</p> <p>☆ からあげ ハンバーグ 等</p> <p>さし箸</p> <p>冬休み明け バターコーンも箸で掴んで食べられるようになる。 からあげ等は、箸ですべて落すこともあったが、箸でささずに食べようとする意識は高まった様だった。</p>	<p>年中時</p> <p>5月中旬より給食が始まり年年初めの給食で、みそ汁の具、肉じやがの野菜や肉を上手に箸を使って食べることができるようになっていた。</p> <p>家庭でも毎日箸を持つ練習に取り組み、成果が見られた。</p>






実践例VI-(1)
(テーマ)




お店屋さんごっこ
「青果市場ってどんなところかな？」

(令和2年2月28日)

対象児	年中組 (49名) 年少組 (55名) 計104名	ねらい	○ 様々な野菜や果物に興味を持ち、関心を高める。 ○ お店屋さんごっこへの期待や意欲を高める。
幼児の実態	○ 野菜に対して苦手意識が強く、残したり減量したりする姿が見られる。 ○ 店員さんの真似をして、ごっこ遊びを楽しむ姿が見られる。 ○ お店屋さんごっこを楽しみにしている。		
活動の流れ	幼児の活動・発言		保育者の援助
○ 青果市場について映像を見ながら、話を聞く。  ○ 競りについて話を聞く。 ○ 鐘を触ったり、鳴らしたりする。 ○ 競りごっこ 	○ 青果市場について、映像を見ながら不思議に思ったこと、知っていることなど話をする。 「このお野菜、見たことあるよ！」(年中・少児) 「〇〇っていう果物だよ。」(年中・少児) 「このお野菜は少し苦いよ。」(年中児) 「この果物はすっぱいよね。」(年少児) ○ 競りに使われるサインを教えてもらい、サインを真似したり、友達同士で見せ合ったりする。 「2本指だから2千円だ！」(年中児) 「100円はどうするのか？」(年少児) ○ 競りに使われる鐘を持ってみたり、鳴らしてみたりする。 「大きいね、重たいね。」(年中児) 「どうやったら鳴るのかな？」(年中児) ○ 競りを真似し、ごっこ遊びを楽しむ。 「いらっしゃい、いらっしゃーい。」(年中児) 「おいしいお野菜ですよ。」(年中児) 「いくらで買いますか？」(年中児) 「2千円！5千円！」(年中児) 「ありがとうございます。」(年中児)		○ 子どもたちが理解しやすい言葉に変え分かりやすく説明したり、映像を見ながら、保育者が大きなリアクションをとることで、興味・関心が高まるようにする。 ○ 野菜や果物の特徴や話をしたりしながら野菜や果物の知識を高められるようにする。 ○ 食の大切さや、生産者への感謝の気持ちに気付けるようにする。 ○ 年中児は数やお金に興味を持ち、お金のやりとりにも関心を高める。 ○ 売る人と買う人のやりとりを通して、お店屋さんごっこへの期待を高める。
反省・考察	予定では青果市場へ見学に行く計画だったが、ウイルス感染を考慮し、見学を中止し、出前授業となる。 年少児には少し難しい内容だったが、野菜や果物の映像にはとても興味を持っていた。年中児は、たくさんの種類の野菜や果物に関心を持ち、「食べてみたいと思った。」という声も聞かれ、野菜や果物に対する興味・関心が高まったように思う。		

<p>対象児</p>	<p>年中組 (49名) 年少組 (55名) 計 104名</p>	<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本物同様に作られた食材や食べ物に触れ、食への関心を高める。 ○ 売り手、買い手になりきり、ごっこ遊びを通して喜びや達成感を味わう。
<p>幼児の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の中で見ている食べ物を、身の周りにある廃材を使って工夫しながら作る。(年中児) ○ 保育者や友達と関わりながら、ごっこ遊びを楽しむ。(年少児) ○ 異年齢児と活動することで教えたり、真似したりする経験を増やし、憧れや自信につなげることができる。(年中・少児) 		
<p>活動の流れ</p>		<p>幼児の活動・発言</p>	<p>保育者の援助</p>
<p>○ お店屋さんごっこの説明</p>  <p>○ お店屋さんごっこスタート (前半チーム) (年中組) もも組 …八百屋 Liky組 …カフェ (年少組) すみれ組 …果物屋 Cherry組…ファストフード たこやき屋</p>   <p>○ 後半チームと交代する。</p> <p>○ 活動の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各クラスごとにそれぞれのお店の前に集まり保育者の話を聞く。 ○ お店の紹介を聞きながら、どんなお店があるのか、見学をする。 「おいしそうな食べ物がたくさんある。」 「これ買いたいな。」 ○ お店屋さんごっこのお約束をする。 ○ 前半チーム (赤のシール) は店員さんになり後半チーム (その他のシール) はお客さんになり、お店屋さんごっこを楽しむ。 「いらっしゃいませ。どれにしますか？」 「〇〇をください。」 「〇〇円のお釣りになります。」 「ありがとうございました。また来て下さいね。」 ○ 飲食ブースで買った品物を広げ、友達同士で見せ合ったり、食べたり飲んだりする。 「これおいしいね。」 「本当に食べたくなっちゃうね。」 「次はどこのお店に行こうか。」 ○ 店員さん役とお客さん役を交代し、前半同様お店屋さんごっこを楽しむ。 ○ 売り上げたお金を分け、給料として持ち帰る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれのお店にはどんな食べ物が売っているのか、一緒に見て周り、お店屋さんごっこへの期待を高める。 ○ この食べ物にはどんな食材が入っているか、この野菜や果物でどんなメニューが作れるかなど話をしながら見学することで、食への興味・関心を高められるようにする。 ○ 保育者も一緒に店員さんやお客さんになりきり、楽しさを共感する。 ○ お金や数にも興味を持てるよう、声掛けを工夫する。 ○ 品物を見て、「すごい！本物みたい！」と大げさに褒めることで、作った子どもたちが喜びや満足感を味わえるようにする。 ○ 飲食ブースで保育者も一緒に飲食を楽しみ、食感や味覚、嗅覚にも興味を持てるような声掛けをする。 ○ 子ども同士の関りが深まるよう見守り、なかなか買うことができない幼児など、必要に応じて援助をする。 ○ 活動の振り返りをし、今日の売り上げを給料として渡すことで、満足感や達成感を味わうことができるようにする。 	
<p>反省・考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な品物に触れて、興味を持ちながら、意欲的に参加することができた。 ○ 自分たちが作った品物を買ってもらえた満足感やみんなで協力して作った達成感を味わうことができた。 ○ 給食時には子どもたち同士で野菜について話をする姿もみられ、野菜や果物に対して、興味・関心が高まったように思う。 		

(テーマ) みんなで力を合わせて、野菜の苗を植え育てる

<p>対象児</p>	<p>年長児49名 年中児57名 計106名</p>	<p>ねらい</p>	<p>○ 野菜の世話を通して、野菜に興味・関心を持ち、収穫の喜びを味わう。 ○ 命を感じたり、命を大切にすることを養う。</p>
<p>幼児の実態</p>	<p>○ 苗が野菜の形へと生長することを知らない。(年中児) ○ 苗を土に植え、生長することを楽しみにしている。(年中・長児) ○ どんな世話をすればいいか、子どもたち同士で話をしている姿が見られる。(年中・長児)</p>		
<p>活動の流れ</p>	<p>幼児の活動・発言</p>		<p>保育者の援助</p>
<p>○ プランターに石、土を入れる。</p>  <p>○ 苗を植える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トマト ● きゅうり ● なす ● ピーマン  <p>○ 水やりをする。</p> 	<p>○ プランターの底が隠れる程度に石を入れる。 ○ 土を入れる。 「楽しい！」 「おうちでしたことがある！」</p> <p>○ 保育者が持っている苗の様子を見て、気付いたことや、思ったことを伝え合う。 「葉っぱ？」 「これがお野菜になるんだ。」 「触ってみたい。」 「可愛いね。」 「はやく大きくならないかなあ。」 「大きくな〜れ！大きくな〜れ！」 「やさしく触るんだよ！」</p> <p>○ どんな生長、変化があるか観察する。 ○ じょうろに水をくみ、順番に水やりをする。 「全然大きくならないね。」 「はやく食べたい！」 「葉っぱがふえているよ。」</p>		<p>○ 馴染みのある野菜の苗を用意し、苗に興味・関心が高まるようにする。 ○ 苗を見せ、「どんな色？」 「形はどう？」 「匂いはするかな？」などと野菜の苗を植えてみたい気持ちや育ててみたい気持ちになるような援助を行う。 ○ 視覚、触覚、嗅覚などで感じたこと、思ったことを自由に発言できるように促しながら観察する力を養う。 ○ 野菜に愛着を持ち、命を感じたり、大切に育てることができるように世話をする役割を決め、栽培する楽しさを味わえるようにする。</p> <p>○ 水やりを忘れるとどうなるか問い掛け世話をすることの大切さに気付くような声掛けをする。 ○ 植物と関わることで、生長の変化に気付いた幼児の姿を捉え、その気付きに共感し、他児にも伝えていく。</p>
<p>反省・考察</p>	<p>苗植えをしたことのない幼児にとっては特別な体験となり、いつも食べている野菜をより身近に感じる事ができた。 野菜の特徴や変化に気付くことで野菜への興味・関心や食べることへの意欲を高めることができた。</p>		

5 まとめ

本園は開園以来食育に力を入れてきたが、改めて「子どもの健康な心と身体を育む食育を考える」という研究の視点から実践したところ、大切な点と、更に研究を深めなければいけない点が見えてきた。

今年度は、今まで行ってきた保育を食育の観点から見直し、各学年ごとの年間食育計画を立てた。今、実践の途中ではあるが、反省を踏まえながら更に改善し、充実したものにしたい。

今回は、食への興味、関心を深められるよう、環境や遊びの工夫ということでお店屋さんごっこに着目し、食育をテーマとして野菜や果物を取り入れてみた。

お店屋さんごっこを前に、実際に青果市場の様子も見学できたら子どもたちの意欲にもつながると見学を計画したが、今年はコロナウイルス感染防止の為、直前に中止となる。しかし、青果市場の方が園に出前授業に出向いて下さり、良い体験となった。来年は、ぜひ見学を計画したい。

野菜の苗植えも今年初めて取り組み、年長、年中組で育てている。水やりをして引き続き、野菜の生長の様子を観察し、収穫の喜びを味わわせたい。

早速、6月上旬にきゅうりやトマトの収穫をし、実際に試食した。苦手な子どもたちも自分たちで育てた野菜をおいしいと食べていた。貴重な体験となる。引き続き他の野菜の生長も観察する。

このように、子どもたちが食に興味を持ち喜んで食するためには、保育者自身が食に興味を持ち、教材研究をし、子どもたちにいろいろな経験をさせることが大切であることを実感した。

また、入園・進級時に行った食事状況調査で朝食を食べない子や、1時間以上かけて夕食を食べる子が何人かいるため、このような状況を踏まえ、家庭と連携を取りながら、食事の望ましい習慣、姿勢、偏食の矯正、箸の使い方等、食への情報を収集し、成長期にある幼児の心身の健全な発達のために食育教育を進めていきたい。

6 今後の課題

- 年間食育計画を実践し、反省をもとに更に改善し、充実したものにす。
- 食育教材を工夫し、楽しんで食への興味、関心が深められるようにす。
- アレルギー対策等も研修をし、力を入れる。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて「健康な心と身体」の教育内容の充実を図っていく。

